

下野市立細谷小学校

1 学校課題

(1) 研究主題

豊かな心を持ち、主体的に生きる子どもを育てる道徳教育
～思いや考えを伝え合う道徳の時間を目指して～

(2) 研究の仮説

仮説1 「道徳の時間」において話し合いの充実を図れば、人を思いやる豊かな心を持ち主体的に生きようとする児童を育成することができるであろう。

仮説2 児童の学校生活全体と「道徳の時間」との関連を図れば、児童はより豊かな考えを持ち、主体的な判断・行動ができるようになるであろう。

2 研究計画

月	研修内容
4	・学校課題研究についての共通理解
5	・学級の児童の実態把握とめざす児童像、学級像の明確化
6	
7	・指導案検討
8	・道徳教育計画の見直し
9	・指導案検討 ・授業研究会 3・4年
10	
11	・人権に関する授業
12	・指導案検討 ・道徳授業参観（全学級）
1	・授業研究会 2年 ・学校課題の成果の確認
2	・研究の反省
3	・次年度の計画

3 研究内容

(1) 主な研究内容

① 「道徳の時間」の充実と研修

- ・ 計画的な指導
- ・ ねらいに迫るための授業の質の向上
- ・ 児童同士の考えをつなぐ教師の役割を意識した授業
- ・ 「道徳の時間」の評価の仕方（1時間ごとおよび全体の評価をどう考えるか）
- ・ 「私たちの道徳」の活用
- ・ 授業研究

② 学校教育全体と道徳教育との関連

- ・ 道徳全体計画による全教職員の共通認識・協力
- ・ 温かな人間関係を基盤とする体験活動

③ 家庭や地域との連携

- ・ 授業公開
- ・ 地域の方との交流



授業参観

(2) 研究の実際

① 第1回授業研究会 3・4年 「ブラッドレーの請求書」 (家族愛)

指導助言者 宇都宮大学教育学部准教授 上原 秀一先生
下野市教育委員会指導主事 坂本 順子先生

3年生と4年生が一緒に学ぶ複式の学級での道徳の授業である。ねらいとする価値に迫るため、授業者は児童同士の考えをつなぐという役割を意識した授業を行った。主人公と母の請求書を掲示して比較させたり、問い返しを行ったりした。児童は、自分の考えを述べたり友達と話し合ったりして考えを深めた。

研究協議では、小グループに分かれて話し合った。児童一人一人について、どう発言したか、どうつぶやきどんな表情をしていたか深く話し合うことができた。

指導講評では、上原先生から、道徳の資料の見方・選び方についてのお話を伺った。また、道徳の教科化に関する講話をしていただいた。「考える道徳」「議論する道徳」等、今後研究すべき方向を知ることができた。



② 第2回授業研究会 2年 「かけ算けんてい」(勤勉努力)

指導助言者 宇都宮大学教育学部准教授 上原 秀一先生
下野市教育委員会指導主事 田澤 孝一先生

第1回の研究授業に引き続き、児童の考えをつなぐ教師の言葉掛けを授業の視点に設定した。語彙の少ない低学年生のお話をどう深めることができるか、8名という少人数でどう話し合わせればよいか考えた。

研究協議では、2つのグループに分かれて話し合った。2年生にとっての「勤勉努力」とは、という価値についての話や、自分の考えを書いてまとめる方法等についての話題が出ていた。

指導講評では、導入は何のために行うのか、どう行えばよいのか、資料で児童が考えるポイント、等のご指摘をいただいた。また、評価について、本時だけで児童の考えが変わるということとは考えられず、長い時間の中で変容をみとることになる、とのお話をいただいた。



4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ・ 全学級が道徳の授業参観を行い、保護者に授業の様子を見てもらった。懇談会でも、道徳の授業や道徳の時間と日常生活との関連等について担任が話をした。家庭の協力を得るためのよい機会となった。
- ・ 授業参観、研究授業、人権に関する授業で、全学級が道徳の時間を見せる機会を持った。教師一人一人が研修を深めることができた。また、指導案検討の際、授業者以外の教員が発問を考えることから参加し、学校全体で授業を研究するという意識を高めることができた。
- ・ 学級や縦割り班等での日常生活で、温かい人間関係を築くことができた。全校校外学習等の体験と道徳の時間とを関連させた指導を心掛けることができた。

(2) 課題

- ・ 道徳全体計画について、全校体制で共通理解し、児童の実態や体験活動の時期等を考慮して見直しを行いたい。
- ・ 評価について、他校の取り組みや図書等を参考にして研修を深めたい。

